

ラグビーを通して築き上げた一貫組織



多くなつてきている。また少子化に伴い、少年ラグビーパー人口も減少傾向にある。その課題や悩みを少しでも解消しようと試みているのが、「はじめてのラグビースクール」イベントである。幼児や小学生、ラグビーに触れたことのない大人も含め、ラグビー体験ができる環境作りだ。少しでも多くの人々に、ラグビーを体感して興味を持つてもらうことで、課題や悩みの解決に結びつくことを期待している。また指導者のレベルアップにも力を注ぎ、より強い組織作りを目指している。このように県市・協会・学校・地域が協力し、一貫とした組織環境作りに成功している。ラグビーに限らず、愛媛における様々なスポーツで、組織・環境作りのモデルとなり強いスポーツ環境を築き上げれば、必ず新たなスポーツヒーローが誕生するに違いない。そして「2017えひめ国体」の成功が、第一歩となることを信じている。

四 国中央市ラグビーフットボーラークラブ協会は、小学生から社会人までの「一貫とした組織」が約30年間続いている。小学・中学生は宇摩ラグビースクール（中学生はジュニア）、高校生は三島高校、社会人は三島クラブとスクール生の半数以上が同じ進路を歩む。小さい頃から同じ進路に進むことで、確たるチームワークが形成され、まさにラグビーの代名詞「One for All. All for One」である。またスクールでは結果にこだわらず、教育や指導を中心に、ラグビーを楽しく好きになつてもらうことを心掛け、本格的なラグビーの戦術などは三島高校で鍛え上げている。この「一貫とした組織も完成されつつあり、近年は三島高校が、全国高校ラグビー選手権大会など愛媛県代表として何度も出場している。「2017年えひめ国体」のラグビー会場も四国中央市で行われる。「えひめ国体」ラグビー愛媛選抜選手を、より多くの四国中央市出身者で揃えたいと個人のレベルも上がり、全国大会などに出場することで、県外の強豪校や大学・社会人などへ進む選手も夢や願望を抱いている。そうすることで、四国中央市開催における地域「丸」となった取り組みや、盛り上がりに繋がる可能性が生まれる。しかし課題や悩みも少なくない。個人のレベルも上がり、全国大会などに出場することで、県外の強豪校や大学・社会人などへ進む選手も